

令和 7 年度 県立下館第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を目指し、生徒と教師がともに学び合う学校 【育てたい生徒像】 様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達 成 状 況
学習指導では、授業時間にゆとりをもたせ、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を目指し、授業改善に努めた。ICT機器の活用については、一人一人の教師の意識が向上し、普段の授業の中でのICT機器の活用は定着してきた。課題は、学年が上がるにつれ、上位層と下位層の学力差が大きくなっていることである。下位層の基礎学力の底上げを図ると共に、上位層のさらなるレベルアップを図りたい。そのために習熟度別の少人数、TTの授業の充実など、学習の個別最適化を引き続き進め、授業改善を推進していきたい。また、各種テスト結果の分析を効果的に進め、授業改善に生かしたい。今年度、第 1 期生が、高校 3 年次となったので、中学校教員と高校教員がTTを行うなど中高一貫教育をより推進したい。さらに、行事だけでなく学習面で中高生が関わり合う機会を増やしていきたい。 生徒指導においては、複数担任制での学年運営を通し、生徒一人一人に寄り添った関わりを目指した。ほとんどの生徒が、学習に対して前向きに努力し、基本的生活習慣を身に付け生活できている。しかし、人間関係や学習のつまずきに対して悩む生徒もおり、学校を休みがちになる生徒が出てきた。複数担任制をより生かした生徒理解、教育相談を充実させたい。管理職が積極的に関わるなど家庭との連携も大切にしながら	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	①生徒による授業評価での授業満足度【4段階評価】平均 3.2 以上を目標に、生徒の学びを引き出す授業力の評価（Teaching）と生徒の学びを支援し伴走する力の評価（Coaching）により、教員個々の授業改善を推進する。 ②問題解決的な学習や協働的学習スタイルを積極的に取り入れ、附属中学校 7 校連携事業や総合的な学習の時間で身に付けた手法を生かした授業を展開する。また、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う学習を充実させるとともに、学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動を充実させる。 ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 ④習熟度別の少人数学習や TT での指導の充実を図る。	
	正しく判断し、思いやりのある生徒の育成	⑤複数担任制を生かし、教育相談体制を工夫することで、より正確な生徒理解に努め、個に応じた指導を効果的に行う。 ⑥全員で協力して実践する活動等を工夫し、意図的に設定する。 ⑦学校内はもちろん、校外においても元気の挨拶を励行する。 ⑧道徳科の授業を充実させ、道徳的価値の理解と実践力を育成する。 ⑨職員間の共通理解を図り、同一内容での指導を徹底する。	
	特別活動の充実	⑩附属中独自の生徒会組織体制を整備することで生徒会活動の活性化を図る。 ⑪学級活動における話し合い活動の充実を図る。 ⑫近隣の中学校や小学校と連携した取組を計画、実践するとと	

別紙様式 2 (中)

ら、生徒に寄り添った生徒支援に努めたい。 特別活動においては、附属中独自の生徒会組織体制を整備し、生徒会活動を実践したり、学級においては、話し合い活動に力を入れたりして、自発的、自治的な活動の充実を図った。生徒会組織体制を見直し、学級活動における話し合い活動を更に充実させ、自治的能力の育成を図っていききたい。また、自己有用感や自己肯定感を高めるために、キャリア・パスポートの効果的な活用を図っていききたい。 説明会やHP、学校パンフレット、新聞やケーブルテレビ等で積極的に情報を発信し、「社会に開かれた学校づくり」に努めてきた。また、筑西市や地元企業等、地域との連携も、実施方法を工夫・改善しながら進めてきた。積極的な情報発信を工夫して、「社会に開かれた学校づくり」を進めたい。そして、地域と連携した課題解決型探究活動を推進することで、地域に信頼される学校づくりに努めていききたい。また、高校と有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組んでいきたい。 会議等のペーパーレス化を進め、報告・連絡・相談と指導・助言・調整が機能的に働くようICT機器を積極的に活用した。質の高い効率的な組織運営の実現を目指し、適切な役割分担と連携のある組織づくりを推進した。業務効率化に向けたICT機器の活用を更に推進し、仕事内容等の精選・合理化に関する職員の意見を積極的に取り入れ、実現していききたい。				もに、学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。 ⑬キャリア・パスポートを積極的に活用し、積み重ね、振り返りを充実させる。	
広報活動の推進と地域との連携				⑭生徒主体の学校説明会や附中生による小学校訪問を企画、実施する。 ⑮HPの更新回数を増やしたり、学校パンフレット等を刷新したり、報道機関に情報提供したりするなど積極的な情報発信に努める。 ⑯筑西市や地元企業と連携し探究活動の質を向上させる。また、学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し教育活動の質の向上を図る。 ⑰小学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑱高校と有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。 ⑲一昨年度、創立100周年を迎えた伝統校として、地域と連携した課題解決型探究活動を推進し、地域に信頼される学校づくりに努める。	
働き方改革の実現				⑳各校務部及び学年等で協議したり、個別に職員の意見を聞いたりして仕事内容等の精選・合理化を進める。また、役割分担を細分化、明確にすることで業務の効率化を図る。 ㉑ICT機器を効果的に活用した情報伝達・共有を更に推進していく。 ㉒働き方改革に対する教員の意識を向上させる。	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教科	国語	中高6年間を見通した指導計画及び評価規準を定め、授業のPDCAサイクルを活性化する。学力推移調査においてGTZのAランク到達率70%を目指す。	日常生活における自学自習の習慣を徹底させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。中高6年間を見据えた授業のPDCAサイクルを回し、課題に意欲的に取り組ませる。指導と評価の一体化を徹底し、成果物の「見える化」を目指す。②			
			学力推移調査や新教研模試等、出題傾向の分析を通し、解答の根拠を明確化する。また、事後指導においては得意分野・苦手分野を意識させながら自己分析の理解を促進する。②			
		読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワークやディベートを授業の中に積極的に取り入れる。生徒が作成したスライド等をもとに意見発表をし、意見や理解の共			

別紙様式 2 (中)

			有を深めさせる。②③			
			年間計画に基づき、重点項目を明確にして継続的に授業を実践し、社会生活に対応できる読解力と論理的思考力の育成を図る。各種コンクールに投稿すべく、授業で俳句や短歌などの韻文創作活動や主張文などの文章作成に取り組み、表現力の伸長を図る。③			
		ICT スキルの定着を推進する。	分かったことや調べたことをまとめ、資料を作成してプレゼンテーションできるようになるまで、紙によるレポートなどの従来の指導にロイロノートや google スライドの手法をベストミックスさせ、技術の習得と ICT の効果的な活用を図る。②③			
			新聞や文献、ネット資料など、参考資料を検索し、情報の取捨選択ができるよう、情報リテラシーについての理解を深める。その際、授業との関連を図る。②③			
		読書習慣の定着を促進する。	学級文庫や毎朝各教室に提供される朝刊など、読書環境を整える。図書室と連携し、生徒相互の交流を生かして読書指導を行うように努める。②			
			ビブリオバトルや読書感想文コンクール、さらには POP コンテストなど、読書に関するイベントへの参加や応募を積極的に促し、生徒の読書習慣の量的・質的向上を目指す授業を行う。①②③			
	社会	協働的・探究的な学びの充実を図る。	生徒が予想を立て、見通しをもって行う問題解決的な学習課題の工夫を図る。①②③④			
			ディベートなどにより、社会的事象の意味や意義を解釈し、表現する場を設定し、学び合いのできる学習を行う。①②③④			
		社会的な思考力、判断力、表現力の育成を図る。	ICT 機器等を積極的に活用し、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の工夫を図る。①②③④			
			複数の資料から必要な情報を集めて読み取り、要点を簡潔に文章で表す言語活動を取り入れた学習を行う。①②③④			
		中高 6 年間を見通した指導計画を作成する。	小学校社会科及び生徒の実態を踏まえた指導計画の作成と中高一貫教育に対応したカリキュラムの検討を進める。③			
			授業担当者による相互授業見学及び研究協議等を実施する。①②③④			
	数学	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。②⑦			
			年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。③④			
			スタディサプリを用いた小テストや单元ごとの章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へのフォローを行う。②③			
			学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。②⑤			
		家庭学習習慣の定着に努める。 自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	課題に取り組ませ、家庭学習の習慣をつける。②③			
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。①			
			学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。①②			
			学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にコンピュータを活用した授業を研究する。①②			

別紙様式 2 (中)

	理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	授業の導入の工夫や、時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。 ②			
			教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。 ②			
			授業後、生徒に授業内容で分かりにくかったところを聞くなど、フィードバックを得ながら授業改善に取り組む。 ②			
		自然現象に関する問題提起をし、理科的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。 ②			
			単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。 ②			
		進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	高校籍教員による専門性の高い補足説明を入れることで理解を深める。 ②③④			
			理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。 ①			
		生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。 ②③			
			オンライン環境を活用し、個別指導の充実を目指す。 ③			
	保健 体育	保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標にそった授業計画を毎時間立案出来るようにする。 ②			
			最新のデータや資料をもとに、学習カードやＩＣＴ機器を活用してペアワークやグループ学習など、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。 ①②			
		現代社会の中で心身共に健康に生きるための知識の習得に努める。	生涯を通じた健康作りの基礎を身につけるようにする。 ①②			
			養護教諭との連携を図った、体験的な保健の授業を実施する。 ②④			
			保健ノートのまとめの問題を定期的に点検し、確認テストを行う。 ②			
		様々な手立てを講じ、共生の視点をもちながら、確実に基礎体力の向上を図る。	年度を通じて、各学期に各学年とも体づくり運動の時間を設ける。 ②			
			ゲームの進め方を工夫し、生徒一人一人の運動量を確保する。 運動が苦手な生徒でも積極的に取り組めるようなルールを設定する。 ①②⑥			
		種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい、生涯にわたって運動する習慣を定着させる。	各種目で経験者をグループ内に配置し、スモールティーチャーを設ける。 ③⑨			
			バランスを考えたグループを作り、全員が楽しめるゲームができるようにする。②⑨⑮			
		スポーツを通してルールを守る習慣を定着さ	単元後半のゲームでは、互いに審判を経験することで、ルールを覚えたり、各競技の楽しさを知ったりすることができるようにする。 ②⑪			

別紙様式 2 (中)

		せ、主体的な活動を促す。				
	技術 家庭	学習意欲を高める授業を展開する	実験・実習・体験学習等を多く取り入れた授業を展開する。②			
			異文化についての教材を取り入れ、興味関心を喚起する。 ②			
		思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開し、主体的態度を育成する	三観点を意識したワークシートを作成し、思考力・判断力・表現力を把握する。 ②			
			実験・実習の充実を図る。 ②③			
		環境整備に努める	学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。 ②			
	英語	指導力の向上を図る。	授業を公開し、校内で研究協議を行う。 ①②④⑨			
			他校視察、研修会等への参加を通して指導法の研修を行う。 ①②④			
		生徒が授業や家庭学習に主体的に取り組めるよう適切に支援する。	音声指導やフォニックスの活用、またペア・グループワークを通し、基本的なコミュニケーション能力が定着するよう指導を工夫する。 ①②			
			スモール・トークやグループワークなど、口頭発表の機会を多く設け、生徒が主体的に活動できる授業を実践する。 ①②			
			单元ごとに確認テストを実施し、習得状況に応じた指導改善を図る。 ①②④			
			課題や自学ノートを随時点検し、家庭学習の状況や理解度を確認する。 ①②			
		高校との連携を深める。	中高で連携しながら授業公開や研修の機会を設け、教員間での情報共有に努める。また、中学の教員が高校の授業に、高校の教員が中学の授業に参加することで、相互理解を深める。 ①②⑨			
			Can-Do リストを活用しつつ、6年間を見通した効果的な指導体制づくりを進めるため、教科会等で議論を深める。 ①②④⑨			
特別活動		社会参画する力を育てる。	学級活動並びに生徒会活動等における自発的、自治的な活動の充実を図る。特に話し合い活動の充実をさせ、学級活動・生徒会活動・学校行事の活性化を図る。 ⑩⑪⑫			
		自己有用感や自己肯定感を高める。	各活動におけるねらいを明確にし、可能な範囲で生徒の自主的な活動を行う。 ⑩⑪⑫			
			活動の過程における生徒の努力や意欲を教師が積極的に見取り、適時フィードバックを行う。 ⑬			
1 学年		基本的な生活習慣の確立を図る。	校内・校外を問わず、元氣な挨拶を励行し、教職員も一体となり指導実践にあたる。⑥⑦			
			学級活動における話し合い活動の充実を図り、意図的に安全教育を推進していく。⑥⑨⑪			
			他者を思いやる清掃の徹底、さらには時間の管理に対する意識を高め、学習環境をデザインする教育を励行する。 ⑤⑥⑧⑨⑪			

別紙様式 2 (中)

	コミュニケーション能力の育成を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事等、様々な体験を通じて、他者に対する言葉や行動の気づきの質を高める指導の充実を図る。 ⑩⑪⑫⑬			
		生徒の思いと教員の願いをベストミックスさせ、生徒一人ひとりに役割を与えながら、学校行事を企画・実行していく。 ⑧⑨⑮⑯			
	いじめや不登校生徒への早期対応をしていく。	いじめ等問題行動の未然防止のため、学級活動を柱とし、生徒が互いに認め合い、励まし合う集団作りの推進に努める。 ⑥⑧⑨⑪⑫			
		小さな変化やサインを見逃さない日常的・定期的な情報収集による実態把握を行い、一人一人の悩みや不安に寄り添う教育相談体制を構築する。 ⑤⑥⑪			
		道徳教育や学級活動を通して、自分の気持ちを調整し、折り合いを付けながら他者を尊重する態度を養う。 ⑥⑧⑪			
	学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底する。	デジタルとアナログのよさを活かし、生徒一人一人の学習状況に応じた個別最適な学びを支援する。 ①②③④			
		夢未来手帳や自学ノートを活用し、朝学習・家庭学習の見える化を図り、互いのよい所を認め合いながら協働的な学びを実現させる。 ①②③④			
	業務の見直しを行うことで仕事の改善改革を行う。	ICT の活用や複数担任制のメリットを活かし、業務の分担化を明確にし、これまで以上に生徒一人ひとりに向き合う時間を確保する。 ⑤⑯⑳㉑㉒			
2 学年	学習習慣の改善と基礎学力の向上を図る。	授業に集中して取り組ませるとともに、予習・授業・復習を柱とした学習方法とその習慣を身に付ける。 ①②④			
		スコラ手帳の使い方を見直させ、自己管理を行うことを指導し、自学の習慣化を図る取り組みを推進する。②⑥			
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶の励行や清掃指導をきちんと行うことにより、学習環境を整えさせる。 ⑤⑥			
		早めに登校し、始業までの時間を朝課外の学習や読書をすることで、朝から落ち着いて過ごせる環境を醸成する。 ②⑤			
	コミュニケーション能力の向上を図る。	部活動・委員会活動・学校行事等に積極的に参加させ、コミュニケーションの向上を図れるようにする。 ②⑤⑥⑨⑩⑫			
		ICT 環境の効果的な活用による個別最適化を推進し、国内語学研修等、様々な活動を通して科学的に探究するための手法について習得させ、コミュニケーション力の礎を築く。 ⑤⑩⑫			
	いじめや不登校生徒への早期対応を継続する。	道徳教育を推進しつつ、定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める ②⑤⑦			
		欠席生徒の状況を学年で共有し、支援が必要な場合には、学年会議やケース会議等を開催し、管理職や保健室、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に、子に応じた最適な支援策の検討を図り、実際の支援を行う。 ②⑧⑯⑰			
3 学年	高校への接続に向け	高校への進学（接続）を意識させ、授業に集中して取り組ませるとともに、外部模試や授			

別紙様式 2 (中)

	て、学習習慣の改善と 学力向上を図る。	業などで1・2学年の内容の復習の機会を設け、基礎基本の定着を目指す。また英検などの資格取得にチャレンジさせる。 ①②③			
		高校との連携や ICT 等の活用により、学習の個別最適化を推進し、興味関心や能力等に応じて生徒が主体的・自主的に学力を伸ばすことができるよう支援する。 ①②③④			
	基本的な生活習慣の確 立支援を継続する。	早めに登校し、始業までの時間に朝学習や読書を行うことで、朝から落ち着いて過ごせる環境を醸成する。 ⑥			
		手帳を活用した自己管理について引き続き指導し、常に先を見据えさせ、生活や学習を振り返り、調整できる力を養う。 ⑤⑨			
	コミュニケーション能 力の向上を図る。	学級活動、部活動、委員会活動及び学校行事等を通じて、クラスメイトや他学年の生徒、教員等とのコミュニケーションの仕方を身に付けさせる。 ⑩⑪⑫⑬⑭			
		礼儀やマナーなどについて考えさせ、相手を思いやる力やコミュニケーション力を向上させる。 ⑦⑧⑪⑯			
	いじめや不登校生徒へ の早期対応を継続す る。	どの生徒も安心して生活・学習できるよう、複数担任制を生かして正確な生徒理解を図るとともに、生徒や保護者とのコミュニケーションを密にする。 ⑤⑯⑰			
		定期的な調査によりいじめ等の早期発見・早期解消に努め、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に最適な支援を行う。 ⑤⑥⑧⑨			

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する